

認定こども園せんだい幼稚園 園長 田原 慎也

運動会開催へのご協力ありがとうございました

本年度は県下ならびに薩摩川内市内での新型コロナウイルスの感染状況や運動会会場の都合などにより、人数や開催時間をかなり制限した形での運動会の開催となったため、参加できなかった方、また観覧できなかった方には本当に心苦しい思いしております。

そんな中ではありましたが、3～5歳児運動会を終えることができましたこと、これもひとえに皆様方のご理解・ご協力のお陰様と厚く御礼申し上げます。また、0～2歳児については園だよりの配布日7/1(木)に園のホールにてミニ運動会を開催することになっています。参観ではなく、動画という形にはなりますが、子どもたちが成長している姿を感じて頂ければ嬉しく思います。

園児は遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して人と関わる力や思考力、感性や表現する力を育てていきます。重たいものを持つという経験なしには「重たい」という言葉の意味を理解し難いことでもわかるように、子どもたちはリアルな体験の中で、さまざまな学びや力を育てています。しかし、コロナ禍においては人と人との接触をなるべく避けましょう、物に触れたらすぐに手を洗いましょうと、どうしても人・モノ・コト(出来事・イベント)に触れることに抵抗を感じてしまいがちです。もちろん、感染拡大防止を何よりも優先するのであれば、そういった物理的な接触を減らせばよいかもしれませんが、子どもたちの学びや育ちは物理的な接触によって大きく支えられています。

何だろうと実際に手や指でふれてみる。手触りや温もりを感じる。固いなあ、柔らかいな、冷たい!というだけでなく、思いもよらぬ感触に思わず「うわっ・・・」とのけぞるような体験も子どもにとっては心を揺り動かされる大切な体験の一つです。「年長さんみたいにカチカチの泥団子を作りたい、でも砂を集めてぎゅっぎゅっ握ってもサラサラこぼれ落ちてしまう、なぜだろう・・・」。そんな心の声が聞こえてきそうなほど、懸命に砂を握っている子ども達の姿からは、見る・聴く・触れる・嗅ぐ・味わうといった様々な感覚を発揮しながら、いろいろな物の性質や仕組みに気付いていく姿が見てとれます。

コロナ禍の中で今回の運動会のように保護者の方にご協力頂くことがどうしても多くなってしまいかもかもしれませんが、私たちは何より、【子どもの「体験」が失われないように】ということを大切に、子どもの育ちをしっかりと支えていきたいと考えています。引き続きご協力を何卒お願いいたします。



夢わかば

昨年度から2～5歳児の誕生会のときに「夢わかば」という歌を歌っています。1年半ほど前に市立図書館のイベントでこの歌と出会い、心をうたれたのがきっかけです。子どもたちと一緒に歌っていますが、子どもたち一人一人へのメッセージとしていつか届いてほしいなという思いで歌っています。(実際には曲は3番までありますが、誕生会では時間の都合上3番の一部のみを歌っています)

●夢わかば(作詞・作曲:二階松はじめ) ※以下は3番の一部

小さな小さな 夢わかばおひさま浴びて 雨浴びて
小さな小さな 夢わかば しっかりがっちり立っている

小さな小さな 夢わかば どんな花を咲かすのか
小さな小さな 夢わかば それはぼくらが決めていく

ぼくらは生まれてよかったよ
ぼくらを産んでくれてありがとう